

CTM サーバでのディスク クリーンアップとディスク領域のメンテナンス

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[ディレクトリおよびファイルのメンテナンス](#)

[ログ ファイル](#)

[ONS15xxxService ログおよびトレース ファイル](#)

[コア ファイル](#)

[/var/tmp ディレクトリ](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Transport Manager (CTM) プラットフォームでのディスクのクリーンアップおよびディスク領域の維持についてのヒントを紹介します。CTM サーバを効率的に維持し、パフォーマンスを最大限にするには、不要なファイルを削除し、最低限のファイルのみ保持する必要があります。

注: 削除して特定のファイルについて確実ではない場合 Cisco Technical Assistance Center (TAC) (登録ユーザのみ) が付いている [サポート ケース](#) をオープンして下さい。登録ユーザではない場合、あなた自身を登録し、次に Cisco TAC のサポート ケースをオープンすることを [Cisco.com アカウント 登録ヘルプ](#) に行ってください。

前提条件

要件

CTM について十分に理解しておくことをお勧めします。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、CTM バージョン 4.6.x 以降に基づくものです。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

背景説明

CTM サーバ アプリケーションで最適なパフォーマンスを得るには、ログなどの一時ファイルをアプリケーションが書き込むための十分なディスク スペースがあることを確認します。このようなファイルのいくつかは、次の理由のためディスクに残されます。

- システム管理者がファイルを操作する必要がある。
- トラブルシューティングに必要な情報を Cisco エンジニアリング チームに提供するためにファイルが必要である。

ディレクトリおよびファイルのメンテナンス

CTM サーバ上のすべてのファイル システムを定期的に検査することを強く推奨します。確認する必要があるディレクトリとファイルのリストを次に示します。

- [ログ ファイル](#)
- [トレース ファイル](#)
- [コア ファイル](#)
- [/var/tmp ディレクトリ](#)

これらの中には削除すべきもの、また保持すべきものがあります。ここでは、ディスクをクリーンアップするために必要な操作について説明します。これらのディスク操作を実行するには、root アカウントを使用して CTM サーバにログインする必要があります。

ログ ファイル

CTM ログ ファイルの名前には `server.log` が含まれ、それに年、月、日が付加されます ([図 1](#) を参照)。CTM ログ ファイルはログ ディレクトリ内にあります。

CTM ログ ファイルにアクセスするには、次の手順を完了します。

1. ログ ディレクトリに移動します ([図 1](#) の矢印 A を参照)。
2. `ls -l` と入力して Enter キーを押すと、ログ ディレクトリ内のすべてのログ ファイルが表示されます ([図 1](#) の矢印 B 参照)。最新の 4 つのログ ファイルのみを保持することを推奨します ([図 1](#) の矢印 C を参照)。古いログ ファイルはすべて削除してください。たとえば `rm server.log.2005-11.13` コマンドにより、`server.log.2005-11-13` という名前のファイルが削除されます。 [図 1 – ログ ファイル](#)

```
# cd /log ← A
# pwd
/log
# ls -l ← B
total 24656
-rw-r--r-- 1 root root 0 Dec 17 20:30 server.log
-rw-r--r-- 1 root other 797206 Nov 14 23:59 server.log.2005-11-13
-rw-r--r-- 1 root other 797760 Nov 15 23:59 server.log.2005-11-14
-rw-r--r-- 1 root other 147456 Nov 16 04:26 server.log.2005-11-15
-rw-r--r-- 1 root other 0 Nov 16 13:28 server.log.2005-11-16
-rw-r--r-- 1 root other 137632 Nov 28 23:59 server.log.2005-11-28
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Nov 29 23:59 server.log.2005-11-29
-rw-r--r-- 1 root root 797206 Nov 30 23:59 server.log.2005-11-30
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 1 23:59 server.log.2005-12-01
-rw-r--r-- 1 root root 797206 Dec 2 23:59 server.log.2005-12-02
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 3 23:59 server.log.2005-12-03
-rw-r--r-- 1 root root 797206 Dec 4 23:59 server.log.2005-12-04
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 5 23:59 server.log.2005-12-05
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 6 23:59 server.log.2005-12-06
-rw-r--r-- 1 root root 797206 Dec 7 23:59 server.log.2005-12-07
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 8 23:59 server.log.2005-12-08
-rw-r--r-- 1 root root 797206 Dec 9 23:59 server.log.2005-12-09
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 10 23:59 server.log.2005-12-10 ← C
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 11 23:59 server.log.2005-12-11
-rw-r--r-- 1 root root 797206 Dec 12 23:59 server.log.2005-12-12
```

ONS15xxxService ログおよびトレース ファイル

問題をトラブルシューティングするとき、ONS15454NEService などのサービスのトレースを有効にするよう Cisco TAC エンジニアリング チームから要請される場合があります。このサービスは、showctm コマンド出力で表示されるプロセスの 1 つです。サービスのデフォルト ログレベルは通常、マイナーに設定されます。すべてのサービスに「マイナー」ログレベルを設定した場合、各プロセスに対して 2 つのログ ファイルが存在します。CTM サーバが起動すると、CTM は直前のログ ファイルの名前を拡張子 .bak を付けて変更し、拡張子 .log の新しいログ ファイルを開始します。

たとえば、ONS15454NEService* を確認する手順を次に示します。

1. /opt/CiscoTransportManagerService/log ディレクトリに移動します (図 2 の矢印 A を参照)。
2. ls -l ONS15454NEService? コマンドを発行します (図 2 の矢印 B を参照)。すべての関連ファイルが表示されます。ONS15xxxService ログ ファイルの旧バージョンは ONS15454NEService-1.log.bak になります (図 2 の矢印 D を参照)。現在のログ ファイルは ONS15454NEService-1.log です (図 2 の矢印 C を参照)。図 2 - サービス ログ ファイル

```

# cd /opt/CiscoTransportManagerServer/log ← A
# pwd
/opt/CiscoTransportManagerServer/log
# ls -l ONS15454NEService* ← B
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 17 20:28 ONS15454NEService-1.log ← C
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 15 10:43 ONS15454NEService-1.log.bak ← D
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 17 20:28 ONS15454NEService-1.log.lck
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 15 10:43 ONS15454NEService-12.log
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 15 09:58 ONS15454NEService-12.log.bak
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 15 10:43 ONS15454NEService-12.log.lck
-rw-r--r-- 1 root other 2097140 Dec 20 16:04 ONS15454NEService-12Error.log
-rw-r--r-- 1 root other 68919 Dec 15 10:34 ONS15454NEService-12Error.log.bak
-rw-r--r-- 1 root other 537 Dec 15 10:44 ONS15454NEService-12_initialization.log
-rw-r--r-- 1 root other 537 Dec 15 09:58 ONS15454NEService-12_initialization.log.bak
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 15 10:44 ONS15454NEService-12_initialization.log.lck
-rw-r--r-- 1 root other 2097156 Dec 20 16:04 ONS15454NEService-1Error.log
-rw-r--r-- 1 root other 2097150 Dec 17 20:26 ONS15454NEService-1Error.log.bak
-rw-r--r-- 1 root other 537 Dec 17 20:28 ONS15454NEService-1_initialization.log
-rw-r--r-- 1 root other 537 Dec 15 10:43 ONS15454NEService-1_initialization.log.bak

```

.bak サフィクス付きの NS15xxxService ログ ファイルを削除できます。ログレベルを「トレース」に設定し、アーカイブ ログ モードを有効に設定すると、ファイル拡張子に日時を含むトレース ファイルもまた /opt/CiscoTransportManagerServer ディレクトリに表示されます (図 3 を参照)。図 3 - /opt/CiscoTransportManagerServer ディレクトリ内のトレース ファイル

```

-rw-r--r-- 1 root other 2097261 Dec 6 11:31 ONS15454NEService-1.log.12062005113129
-rw-r--r-- 1 root other 2097193 Dec 6 11:31 ONS15454NEService-1.log.12062005113144

```

何らかの CTM またはネットワークの問題をトラブルシューティングする必要がなければ、ログレベルを `minor` に設定しておくことを推奨します。監視を怠ると、トレース ファイルがすぐに大量のディスク容量を消費し、CTM に障害が発生します。トラブルシューティングする場合のみ、ログレベルを `trace` に変更します。トレースをオンにしている間は、トレース ファイルのサイズを監視してください。テストが完了したら、必ずトレースをオフにします。不要になった時点で、すべてのトレース ファイルを削除します。 `rm` コマンドを使用すると、古いトレース ファイルを削除できます。

コア ファイル

CTM サーバのプロセスが異常終了すると、クラッシュ時のプロセスのインメモリ状態を含むコア ファイルがオペレーティング システムによって書き出されることがあります。コア ファイルを使用して、プロセスが停止した行、およびその時点での変数の値を確認します。コア ファイルは /opt/CiscoTransportManagerServer/bin ディレクトリにあります。Cisco エンジニアリング チームは問題をトラブルシューティングするためにコア ファイルを使用します。

次の手順を実行して、コア ファイルにアクセスします。

1. /opt/CiscoTransportManagerServer/bin ディレクトリに移動します (図 4 の矢印 A を参照)。
2. `ls -l core*` コマンドを発行してすべてのコア ファイルを表示します (図 4 の矢印 B を参照)。図 4 の矢印 C は、/opt/CiscoTransportManagerServer/bin ディレクトリ内にあるすべてのコア ファイルを示します。 `rm` を使用すると、コア ファイルを削除できます。たとえば、 `rm core.454NEService-1.10481` などです。図 4 - コア ファイル

```

# cd /opt/CiscoTransportManagerServer/bin ← A
# pwd
/opt/CiscoTransportManagerServer/bin
# ls -l core* ← B
-rw----- 1 root other 620876672 Dec 17 20:27 core.454NEService-1.10481
-rwxrwxrwx 1 root root 580937116 Dec 13 07:57 core.454NEService-1.12154 ← C

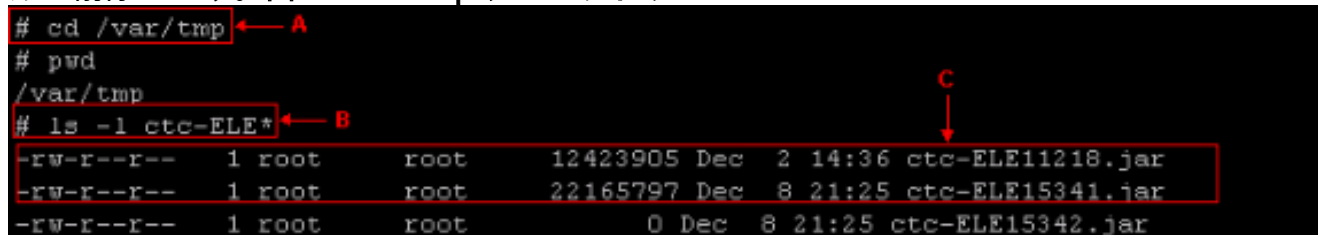
```

[/var/tmp ディレクトリ](#)

システム管理者が確認する必要があるもう 1 つのディレクトリは /var/tmp ディレクトリです。CTM サーバに組み込まれている Cisco Transport Controller (CTC) アプリケーションが /var/tmp ディレクトリに CTC 関連ファイルを作成することがあります。たとえば `ctc-ELE*jar` ファイルなどですが、これを削除する必要があります。

`ctc-ELE*jar` ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

1. /var/tmp ディレクトリに移動します ([図 5](#) の矢印 A を参照) 。
2. `ls -l ctc-ELE*` コマンドを発行します ([図 5](#) の矢印 B を参照) 。
3. 結果を確認し、`rm ctc-ELE*` コマンドを発行して、名前が `ctc-ELE` で始まるすべてのファイルを削除します。 [図 5 - /var/tmp ディレクトリ](#)



```
# cd /var/tmp ← A
# pwd
/var/tmp
# ls -l ctc-ELE* ← B
-rw-r--r-- 1 root root 12423905 Dec  2 14:36 ctc-ELE11218.jar
-rw-r--r-- 1 root root 22165797 Dec  8 21:25 ctc-ELE15341.jar
-rw-r--r-- 1 root root 0 Dec  8 21:25 ctc-ELE15342.jar
```

関連情報

- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)